株式会社 昭和真空

第57期
第２四半期報告書
平成26年4月1日～平成26年9月30日

JPX 東証JASDAQ上場

One vanguard of the digital revolution
「光と電波」情報通信･デジタル家電を支える昭和真空

トップメッセージ

品質向上への取組みや原価低減により利益は計画を上回りました。

代表取締役社長
小俣 邦正
Kunimasa Omata

アジア地域を中心に拡販に努め受注を積み上げました。

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第２四半期連結累計期間におけるわが国経済は､円安の定着と堅調な内需に支えられて緩やかな回復基調が続いているものの､消費増税後の国内景気の持ち直しは鈍く､一部に弱さが見られる形で推移しました。また、設備投資に関しては足踏み状態となっており、底堅く推移しているものの力強さに欠ける状況となっております。他方、世界経済は米国における企業部門の業績回復や個人消費の増加、雇用情勢の改善等を背景に緩やかな回復基調にあるものの、欧州景気の下押し懸念や新興国経済の減速への警戒感等もあり先行きは不透明な状況で推移しました。

当社グループを取り巻く経営環境を見ると、中国を中心にスマートフォン関連の需要が堅調に推移し、当社グループの主要な取引先である光学・電子デバイス業界を下支えしました。期の前半では当社グループに対する引合いや問合せが増え、設備投資に変化の兆しが見えておりましたが、後半になると慎重な姿勢となり小康状態となりました。

こうした環境の中、当社グループでは海外を中心とした好調な市場に向けた拡販に注力してまいりました。特にスマートフォン向けの光学・電子デバイス業界では設備投資に意欲的であり、受注を積み上げることができました。また、既存技術を応用できる分野や新規市場の開拓にも積極的に取り組んでまいりました。

生産面では、機構の見直し等によるメンテナンス性改善やコストダウン、社内検査の強化による品質向上に積極的に取り組むとともに、生産量増加にともなう生産効率向上による原価低減に努めてまいりました。

損益面では当初計画に対し、売上高はやや下回ったものの、継続的な固定費抑制への取り組みや原価低減の推進により利益は上回ることができました。

この結果、当第２四半期連結累計期間の業績は、受注高39億69百万円（前年同四半期比38.6%増）、売上高35億81百万円（同54.2%増）となりました。

損益につきましては、経常利益68百万円（前年同四半期は２億30百万円の経常損失）、四半期純利益68百万円（前年同四半期は３億33百万円の四半期純損失）となりました。

既存技術応用分野や新規市場の開拓に一定の成果がありました。

真空技術応用装置事業の業績につきましては、全体的にはユーザの設備投資に対する姿勢は依然として慎重でしたが、スマートフォン関連の設備投資は活発でした。また、既存技術を応用できる分野や新規市場の開拓にも注力してまいりました。 受注高は30億56百万円（前年同四半期比32.9%増）、売上高は26億68百万円（同61.5%増）、セグメント利益は２億46百万円（前年同四半期は76百万円の損失）となりました。

水晶デバイス業界では、最新装置の拡販を中心に推進してまいりました。

水晶デバイス装置の受注高は６億10百万円（前年同四半期比5.7%減）、売上高は６億53百万円（同15.6%増）となりました。

光学業界では、中国、台湾を中心としたアジア市場を中心に営業活動を推進してまいりました。スマートフォン向けの光学部品の増産を背景に堅調に推移しました。

光学装置の受注高は13億40百万円（前年同四半期比21.5%増）、売上高は14億８百万円（同208.1%増）となりました。

電子部品業界では、既存技術応用分野の開拓を積極的に推進してまいりました。ボリュームとしてはまだ十分ではありませんが、既存顧客のほか新規顧客からの受注に結びつけることができました。

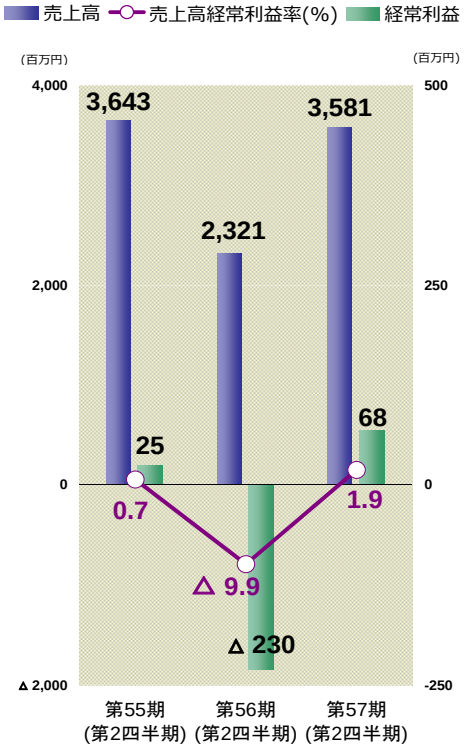
電子部品装置・その他装置の受注高は11億５百万円（前年同四半期比101.0%増）、売上高は６億７百万円（同3.7%減）となりました。

サービス事業につきましては、ユーザーに納入済みの装置に対する改良工事等は順調に推移しましたが、消耗部品等の販売は計画に対して下回りました。

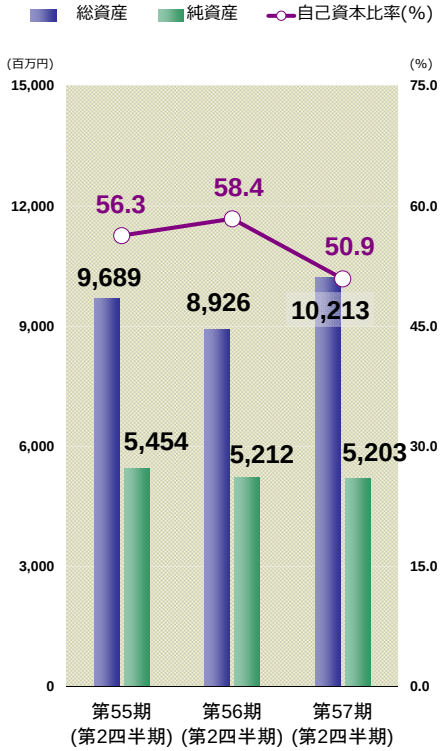
サービス事業の売上高は９億12百万円（前年同四半期比36.4%増）、セグメント利益は２億７百万円（同130.3%増）となりました。

コストダウンや固定費抑制により、黒字となりました。

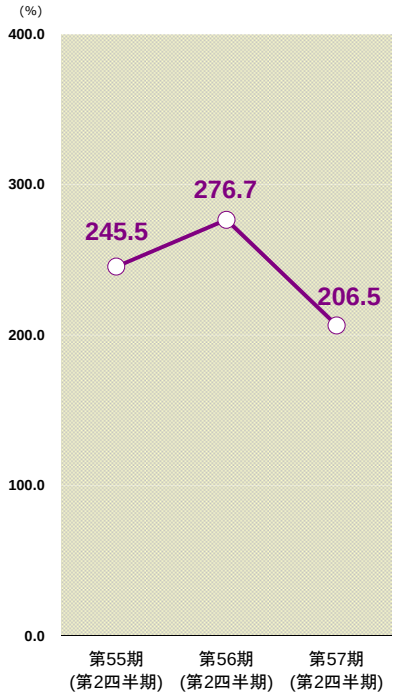
売上高・経常利益・売上高経常利益率



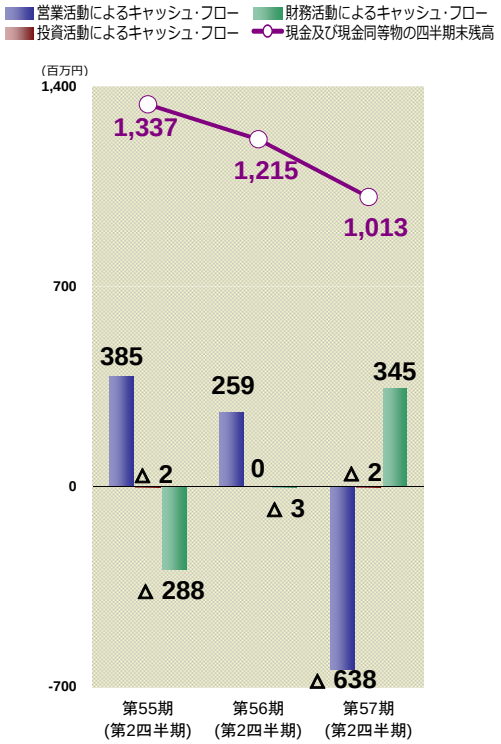
総資産・純資産・自己資本比率



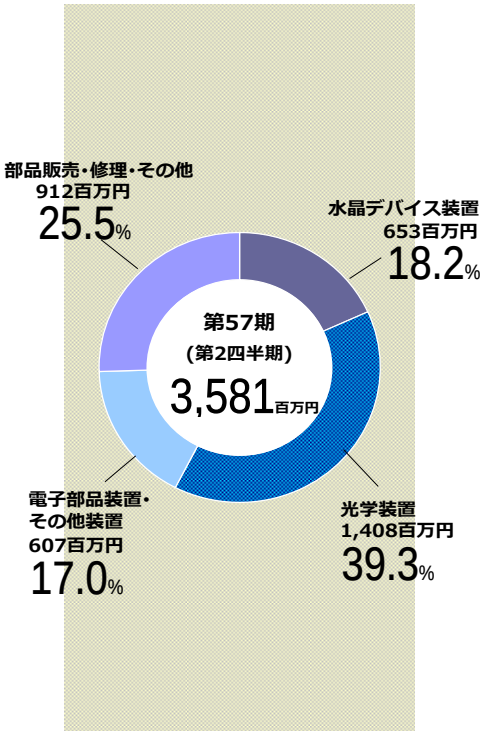
流動比率



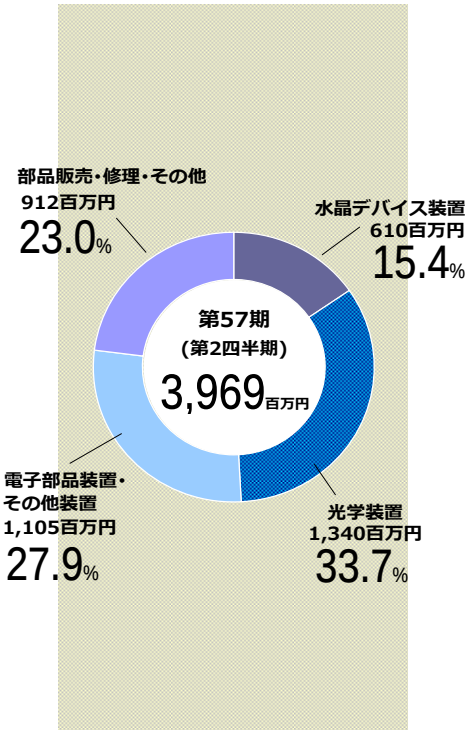
キャッシュ・フロー



品目別売上高構成比



品目別受注高構成比



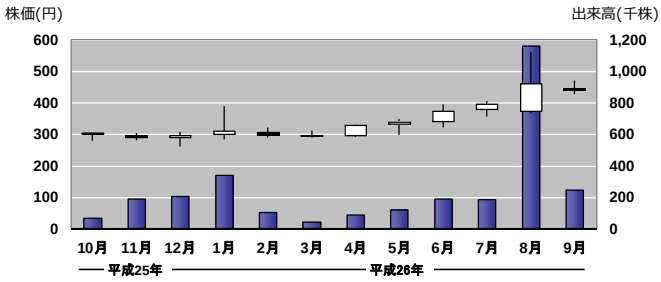
株式・会社情報（平成26年9月30日現在）

□ 株式の状況

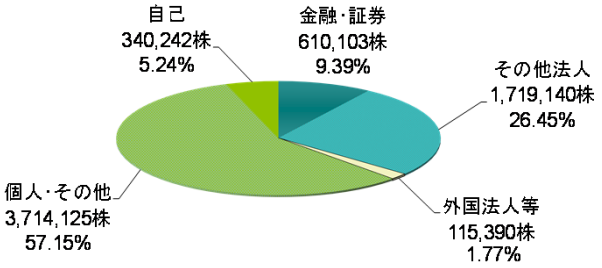
発行可能株式総数……13,800,000株
発行済株式の総数……6,499,000株
株主数…… 2,401名

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社アルバック	1,329,500	21.59
小俣邦正	567,600	9.21
有限会社小俣興産	341,440	5.54
株式会社昭和真空	340,242	―
昭和真空従業員持株会	272,152	4.41
小俣佳子	160,000	2.59
株式会社三菱東京UFJ銀行	145,000	2.35
小俣輝明	120,000	1.94
小俣みつこ	120,000	1.94
日本生命保険相互会社	115,200	1.87

□ 株価および売買高の推移（月次）



□ 所有者別株式状況（株式数）



□ 株主メモ

株主名簿管理人 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部

同送付先・連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社　全国各支店
野村證券株式会社　全国本支店

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日

基準日 3月31日
その他必要がある時は、取締役会の決議をもって予め公告いたします。

配当金受領株主確定日 3月31日および中間配当金の支払を行う時は9月30日

公告掲載方法 電子公告により行う。やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は日本経済新聞に掲載する。

□ 会社の概要

商号 株式会社昭和真空

設立 1958年（昭和33年）

資本金 2,177,105,200円

従業員数 183名

営業種目 水晶デバイス用、光学薄膜用、電子デバイス用などの総合的な真空関連装置ならびに真空機器等
真空蒸着装置、スパッタリング装置、イオンプレーティング装置、ドライエッチング・アッシング装置、真空冶金（溶解、熱処理、焼結、脱ガス）装置、光学薄膜用モニター（多色式、単色式）、IAD冷陰極イオンソース、液晶注入装置、有機EL用蒸着装置、その他

取引金融機関 三菱東京UFJ銀行、横浜銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、八千代銀行、山梨中央銀行、城南信用金庫

□ 事業所

本社・相模原工場
〒252-0244　神奈川県相模原市中央区田名3062番地10
TEL. 042-764-0321 / FAX. 042-764-0329

大野台パーツセンター
〒252-0331　神奈川県相模原市南区大野台二丁目27番2号

□ 役員

代表取締役社長	小俣　邦正	監査役	村木由之亮
執行役員		監査役	千葉　睿一
取締役 執行役員	市川　正	監査役	中村　孝男
取締役 執行役員	高橋　理		
取締役 執行役員	久島　博美		
取締役 執行役員	田中　彰一		
取締役	末代　政輔		

□ グループ会社および関係会社

[グループ会社]

昭和真空機械(上海)有限公司
- 所在　中国上海市
- 主な事業内容　当社装置の生産

昭和真空機械貿易(上海)有限公司
- 所在　中国上海市
- 主な事業内容　当社装置・部品の販売、サービス・メンテナンス

株式会社エフ・イー・シー
- 所在　埼玉県狭山市
- 主な事業内容　マグトラン（歯のない歯車）の製造・販売

[関係会社]

Sansei-Showa Co., Ltd. USA
- 所在　米国オハイオ州

□ IRカレンダー

11月	第57期 第2四半期決算発表・決算説明会
2月	第57期 第3四半期決算発表
3月	31日 第57期 決算日
5月	第57期 決算発表
6月	第57回 定時株主総会 経営報告会 有価証券報告書提出
8月	第58期 第1四半期決算発表
9月	30日 第58期 第2四半期 決算日